



松本市図書館だより

平成26年2月1日発行 第11号

編集・発行 松本市図書館
〒390-0861
松本市蟻ヶ崎 2-4-40
電話/0263(32)0099



ご存知ですか?

松本市図書館 特別コレクション

今回の特集記事では、知られざる(?)松本市図書館の特別コレクションの中からご紹介します!

レベル1 山岳文庫 (中央図書館)

昭和45年10月25日、松本南ロータリークラブ創立10周年の記念事業として寄附された100万円の基金を基に収集を開始し、昭和46年2月10日から公開しました。その後、継続的に松本南ロータリークラブからの寄贈を受け、一方、一般篤志家からの寄贈図書および市費による購入図書を加えた山岳関係の特別コレクションです。現在の蔵書数は約6,500冊です。(貸出可)



レベル2 なかざわもとこ 中沢望東子文庫 (中央図書館)



サンフランシスコ在住で、松本市との縁が深い日系二世の中沢望東子氏から寄贈された基金(500万円)をもとに、平成5年6月に開設されたコレクションです。広くアメリカを紹介し、日米文化の交流をすすめる英語の図書や絵本を中心に収集。現在の外国語絵本、図書コーナーの基礎となっています。(貸出可)



レベル3 普選文庫 (中央図書館)

明治30年7月、松本において普通選挙期成同盟会が結成されて普通選挙制度獲得運動(普選運動)が全国にさきがけて始まったことを記念して「普選運動発祥の地」記念碑を中央図書館の敷地内に建立、併せて普通選挙実現に関する図書資料(50万円相当)約300点が寄贈されました。(貸出不可)

レベルMAX そうきょうかん 崇教館文庫 (中央図書館)

松本藩の藩校であった崇教館(寛政5年~明治3年)、で使用した書籍『四書五経』の漢書や『大日本史』『群書類従』などの和書が約13,000点あります。



(貸出不可)

学都松本の礎—近世・近代、学びの場 2014年2月1日~3月16日 「崇教館の歴史を探る~松本にあった藩学」

平成25年度は松本藩の藩校であった崇教館の創設220周年の年です。当時使用されたと考えられる教科書などから、江戸時代の学びを探ります。

問合せ先: 松本市立博物館 ☎0263-32-0133

「開智学校からは(まった)近代の学び」

博物館や図書館などの施設が、開智学校から誕生していった様子や、特徴的な教育などを紹介します。

問合せ先: 重文旧開智学校校舎 ☎0263-32-5725



図書館と私

「私の図書館ライフ」

図書館協議会委員
荒井 保直

〔松本市図書館協議会委員の皆さんによるコラムです。〕

学生の頃からいくつもの図書館を使わせていただきましたが、松本市の図書館の快適さは格別です。これはまさに「学都」の条件の重要な一つです。

一つ目は職員の対応のよさ。優しく親切。「市民=お客様」という姿勢が一貫しています。二つ目は蔵書数。「100万冊で、11館」は同規模都市でもトップクラス。読みたい本がかなり探せて、ほとんど待たずに借りられます。私は2週間で全部は読めませんが、美術、小説、随筆、専門、CD・DVD等のジャンルで2冊ずつぐらいで常時10冊借りています。読んで、手元に置きたいものは本屋さんで買います。

また、夜10時までやっている分館があります。(全国でも松本だけでは?)土日に行けないときにその南部図書館へ行ってます。時間がないときは、ネットで簡単に予約でき、近くの館に運んでもらえます。11館、個性があります。全部回ると楽しいですよ。どうぞ皆さん2週に1回、お近くの図書館へ。

今月のおすすめ本



『50からは、毎日が“一期一会”』 沖 幸子／著 KADOKAWA
【159オ 所蔵館：中央・本郷・梓川】

人生も折り返し地点を過ぎると、「いっとうなるかわからないな〜」なんて思いに囚われることがあります。この本には毎日の生活や出会いを大切に楽しむ習慣を身に付けるヒントが書かれています。心身共に衰えを感じる今日この頃、ちょっとしたことでも見方を変えれば目の前の景色が変わるかも！！と気持ちを穏やかにさせてくれる本です。

『足元の小宇宙』 埴 沙萌 (はに しゃぼう)／著 NHK出版
【470ハ 所蔵館：中山・本郷・梓川】

80歳の植物生態写真家、埴沙萌さんの本です。少年のような無邪気な視線で、自然の不思議や神秘を生き生きとした写真で表現しています。普段目にする身近な雑草が輝いて見え、私たちの周りにある自然はこんなにも素敵なのだと感じることできる一冊です。



予約本ベスト5

平成25年12月15日～
平成26年1月15日受付

一般書

- 1位 『疾風ロンド』
東野 圭吾／著、実業之日本社
- 2位 『インフェルノ 上』
ダン・ブラウン／著、KADOKAWA
- 3位 『インフェルノ 下』
ダン・ブラウン／著、KADOKAWA
- 4位 『ペテロの葬列』
宮部 みゆき／著、集英社
- 5位 『永遠の0』
百田 尚樹／著、太田出版

児童書

- 1位 『パンダ銭湯』
tupera tupera／さく、絵本館
 - 2位 『おもちのきもち』
かがくい ひろし／作・絵、講談社
 - 3位 『しろくまのパンツ』
tupera tupera／作、ブロンズ新社
 - 4位 『くまくまパン』
西村 敏雄／作、あかね書房
- 『香月流！幽雅な相談室』
香月 日輪／著、講談社

図書館に聞いてみよう！

【今月の事例】



松本藩の武士の食文化について

Q. 松本藩の武士たちが何を食べていたのか、その食文化（食生活）について知りたい。

A. ①ア. 『松本市史 第2巻 歴史編Ⅱ近世』
(松本市：1995年)
イ. 『信州史事典』(名著出版：1982年)

アの方には、その時代の全般的な食生活についての記述がありました。しかし武士に関しての詳しい記述はなかったため、イをあたってみました。当時武士の食事は、平常食・晴れの日の食事・戦時食と3種類に分類されており、1日における3食分のメニューの例もありました。

晴れの日のメニュー例)

年取り：米ばかりの夕飯・いわし・すのもの・酒
元旦朝：ぞうに 晩：年取りの通り・かす煮・酒

②さらに当時の様子を調べたところ、『城下町まつもと昔がたり』(中川治雄：2007年)に、初物や珍味を禁じ、食生活を規制したことや、食生活の移り変わりについての記述がありました。

図書館には、調べ物のお手伝いをするサービスがあります。本についての問い合わせ以外にも、身近な疑問についてもお調べしていますので、お気軽にご利用ください。

編集後記

今回の特集は中央図書館の特別コレクションを紹介しました。中には知らないコレクションもあったのでは？ 山岳文庫では今後も資料の充実を図ってまいります。分館でも各館のテーマを基に本を収集したコーナーを設置しています。図書館の個性が出ていて面白いですよ。

